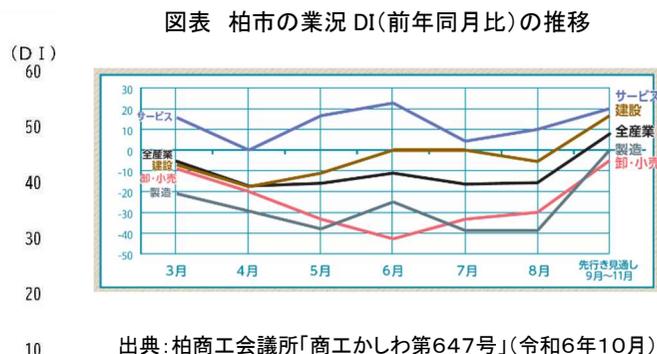
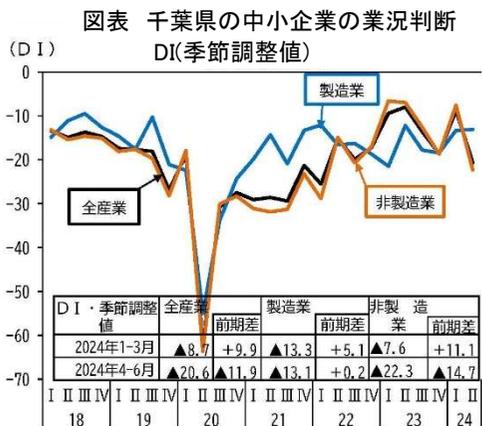
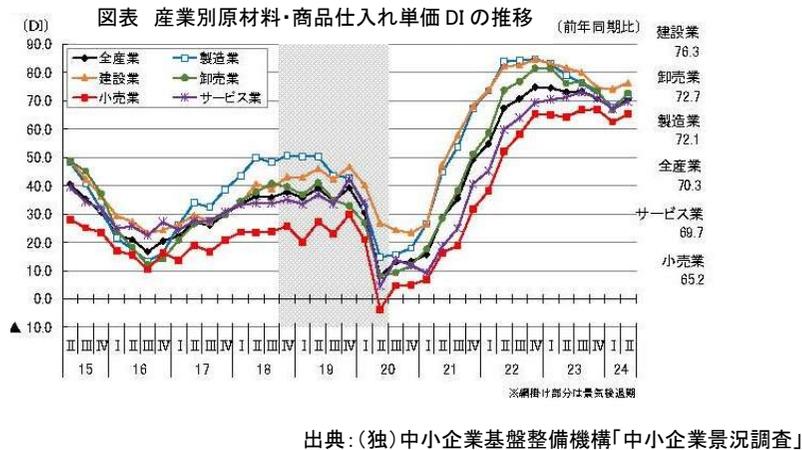
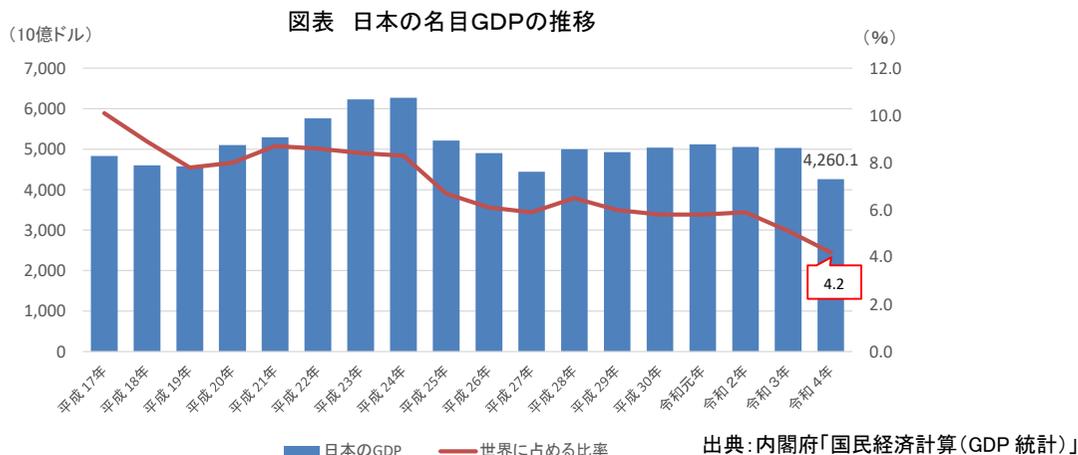


1. 市内事業者を取り巻く環境

- 日本の経済成長力は低下傾向。
- 千葉県内の中小企業の業況はコロナ禍以降回復基調。
- 市内業況はサービス業が好調、製造業、卸・小売業が低調。
- ・日本の名目GDPは、令和4（2022）年には4兆2,601億ドルとなり、世界のGDPに占める比率は4.2%に低下、世界的競争力の低下がうかがえる。
- ・千葉県の中小企業の業況判断DI（季節調整値）は、コロナ禍の影響により、2020年に大きく落ち込んだ後、変動はあるものの回復基調にある。
- ・柏市における令和6年3月以降の業況DI値の推移をみると、横ばいで推移しているが業種間で景況感の差異が生じている。サービス業が好調で、製造業及び卸・小売業が低調で推移している。

- 仕入れ価格の高騰や人員不足への対応が課題。
- ・全国の産業別原材料・商品仕入れ単価DI（「上昇」-「低下」、前年同期比）は、すべての産業でプラス幅が拡大している。特に、建設業、卸売業、製造業で高くなっている。
- ・全国の産業別従業員数過不足DI（「過剰」-「不足」、今後の水準）は、すべての産業でマイナスとなっており人員不足状態が続いている。産業別では、建設業、サービス業で不足感が高い。



出典：(独)中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」

出典：(独)中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」

## 2. 人口

### ●人口は今後も増加が見込まれているが、高齢化が進む。

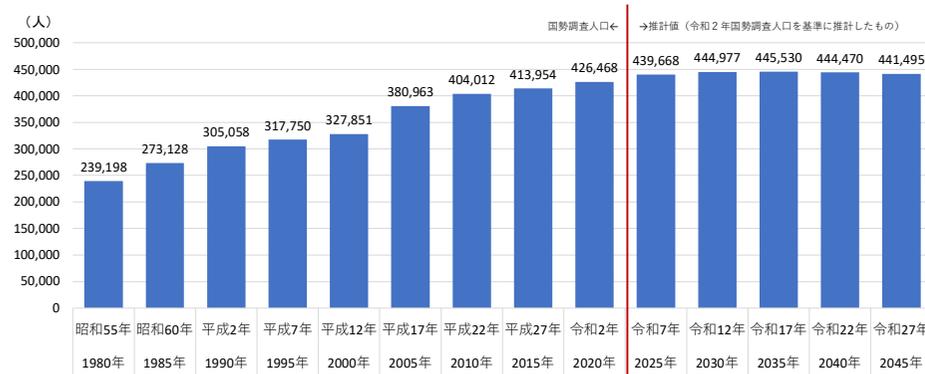
- ・昭和 55 年以降の本市の人口は**増加傾向**が続いており、令和 2 年の総人口は 426,448 人を数える。
- ・将来人口予測も継続して**増加することが見込まれているが**、令和 17 年をピークに減少に転じることが予測されている。
- ・**老年人口（65 歳以上）は増加傾向**にあり、老年人口比率は上昇を続け、令和 27 年には 32.1%となる**ことが見込まれている**。
- ・年齢 3 区分別にみると**生産年齢人口（15～64 歳）**は平成 27 年から令和 2 年にかけて微減したが、令和 7 年から令和 12 年にかけては増加することが予測されている。なお、**令和 12 年以降は減少**することが予測されている。

### ●夜間人口が昼間人口を上回るが、昼間人口比率が高まっている。

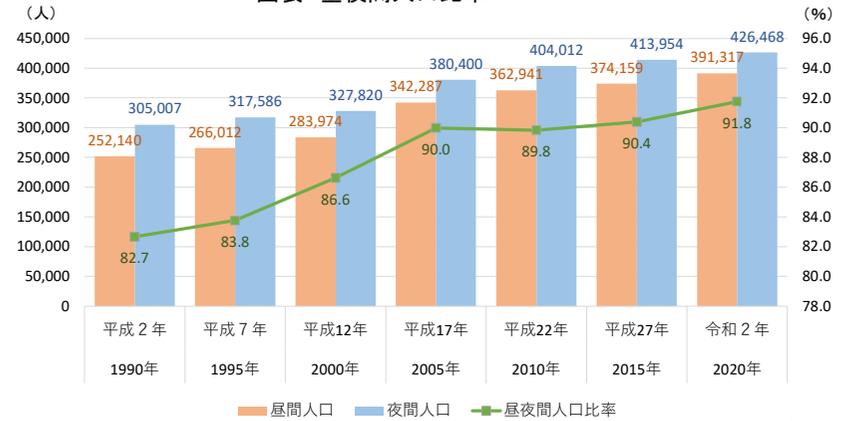
- ・昼夜間人口比率をみると、夜間人口が昼間人口を上回っており、ベッドタウンとしての特徴が見られる。昼夜間人口比率の推移をみると、比率は上昇しており、**市外へ通学や通勤する人の比率が下がっている**ことがうかがえる。
- ・**本市に常住する人の 43.3%が市内で従業**しており、市外で従業する人は 54.1%を占める。
- ・本市で従業する人の 53.5%が市内常住者で、41.8%を市外の常住者が占める。

注：平成 17(2005)年：沼南町と合併

図表 本市の人口推移

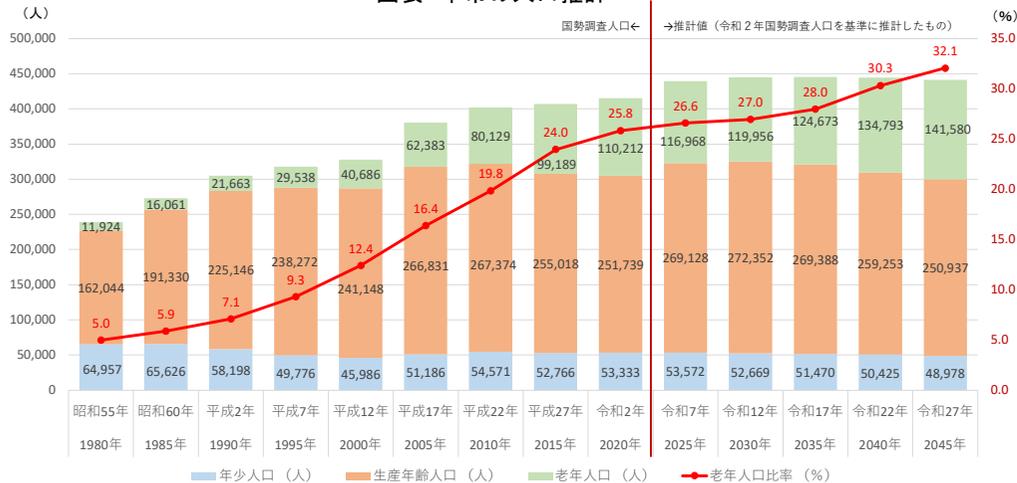


図表 昼夜間人口比率

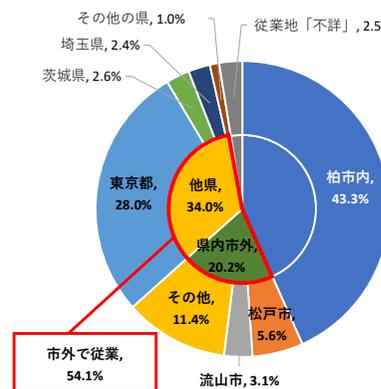


出典：総務省統計局「国勢調査」

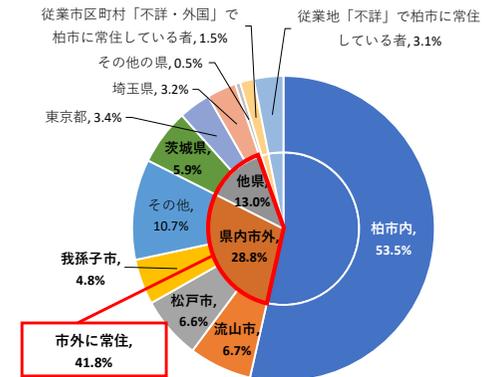
図表 本市の人口推計



図表 常住地による 15 歳以上就業者数



図表 従業地による 15 歳以上就業者数



出典：総務省統計局「国勢調査」(令和2年)

出典：令和 2 年まで：総務省統計局「国勢調査」、令和 3 年以降：柏市「柏市の将来人口推計報告書(2023 年推計)」

### 3. 産業構造

#### ●事業所数は横ばい、従業者数は増加傾向。

- ・本市の事業所数は、横ばいで推移している。
- ・従業者数は平成24年に減少したが、その後増加傾向で推移している。
- ・業種別に事業所数比率をみると、「卸売業、小売業」(23.8%)が最も高く、次いで「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」と続いている。
- ・従業者数比率は、事業所数と同様に「卸売業、小売業」(22.2%)が最も多く、次いで「医療、福祉」、「サービス業(他に分類されないもの)」と続く。

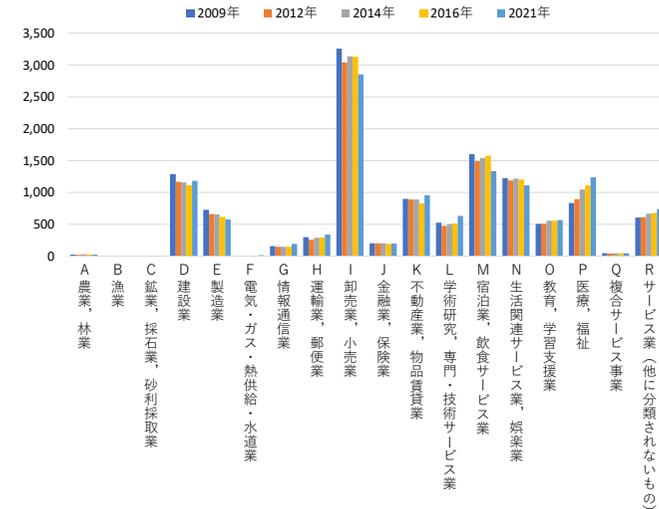
#### ●「卸売業、小売業」が主要産業だが事業所数は減少傾向。

- ・事業所数比率が最も高い「卸売業、小売業」をはじめ、「宿泊業、飲食サービス業」、「製造業」は減少傾向となっている。一方、「医療、福祉」「サービス業(他に分類されないもの)」は増加傾向にある。
- ・本市の売上高(企業単位)を業種別にみると、「卸売業、小売業」(31.3%)が最も高く、次いで「医療、福祉」「建設業」「製造業」と続いております。一方で、工業も活発な点が特徴となっている。

図表 本市の事業所数・従業者数の推移

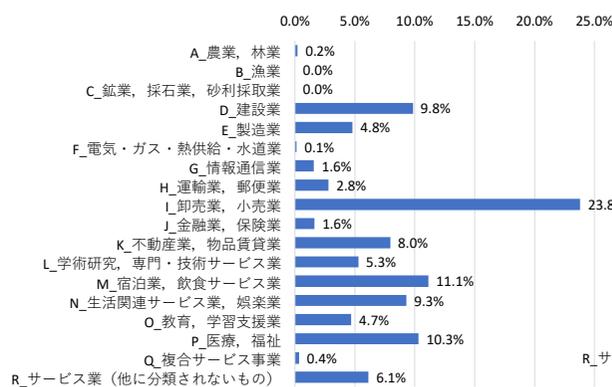


図表 本市の業種別事業所数の推移

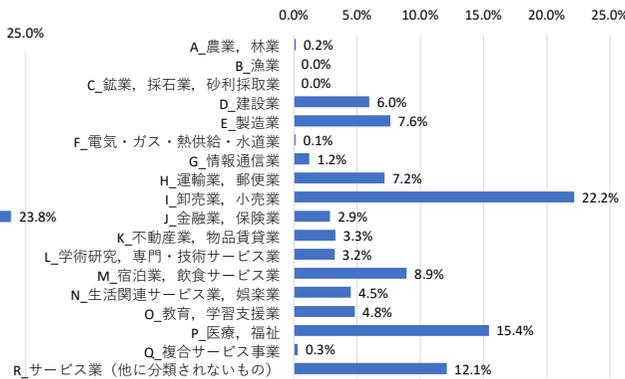


出典：総務省・経済産業省「平成21年・26年経済センサス-基礎調査」「平成24年・28年、令和3年経済センサス-活動調査」

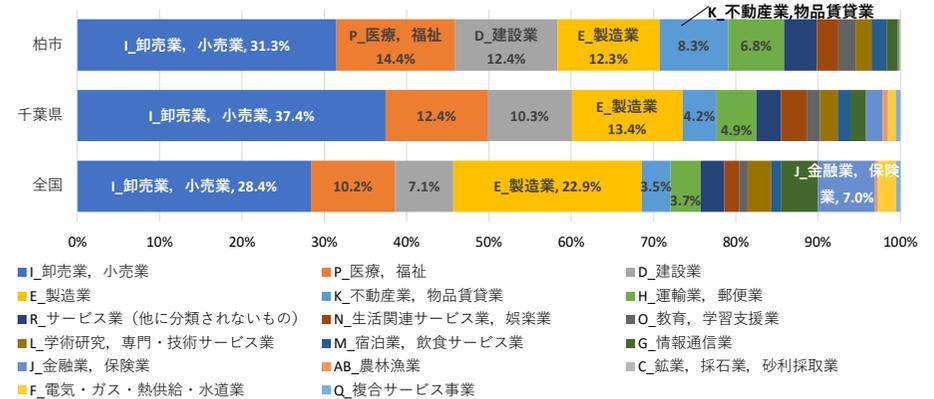
図表 本市の業種別事業所数比率



図表 本市の業種別従業者数比率



図表 業種別売上高(企業単位)の構成比(平成28年)



出典：総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」

●地域の生産・販売額（付加価値額）額は増加傾向。

- ・地域の所得循環構造をみると、生産・販売額（付加価値額）は、11,983 億円を数えるが、一人当たりの平均生産性は、全国平均より低い。
- ・分配は、16,456 億円で、通勤によりもたらされる所得が 3,888 億円であり、ベッドタウンとしての特徴が見られる。
- ・支出は、11,983 億円で、市外からの来街者等による消費が 305 億円を数える。
- ・地域の生産・販売額（付加価値額）の推移は、平成 22 年以降、増減しながらも増加傾向で推移し、平成 22 年から令和 2 年までの 10 年で、**8 %弱増加**している。

●創業比率は近隣自治体と比較して高い比率で推移してきたが、平成 26 年以降は低下傾向。

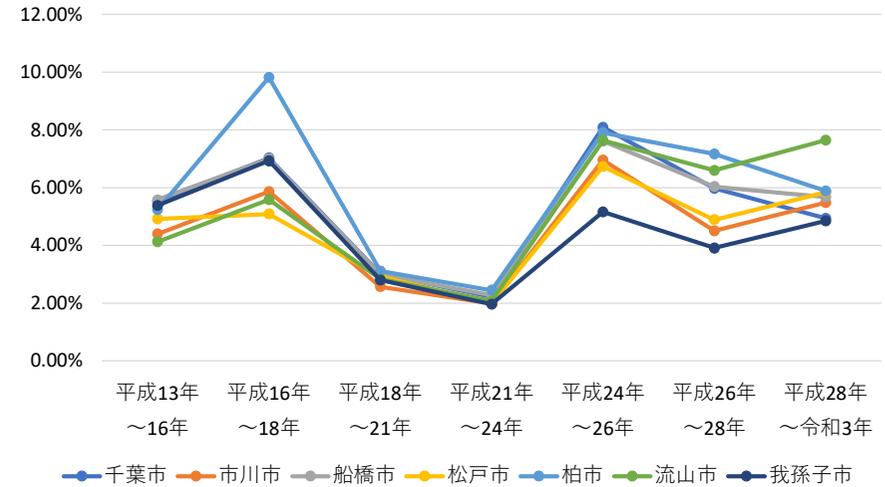
- ・創業比率は平成 24~26 年までは、近隣自治体の中でも比較的高い比率で推移していたが、平成 26 年以降低下しており、平成 28 年～令和 3 年では、流山市よりも低くなっている。

図表 柏市 地域の所得循環構造(令和2年)



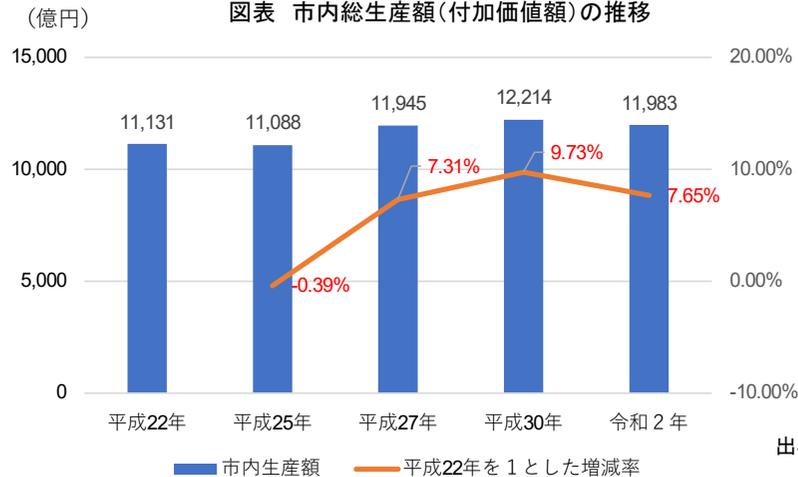
出典: 地域経済循環分析ツール(環境省)

図表 創業比率の推移(近隣自治体比較)



出典: RESAS - 地域経済分析システム

図表 市内総生産額(付加価値額)の推移



出典: 地域経済循環分析ツール(環境省)

## 4. 業種別動向（工業）

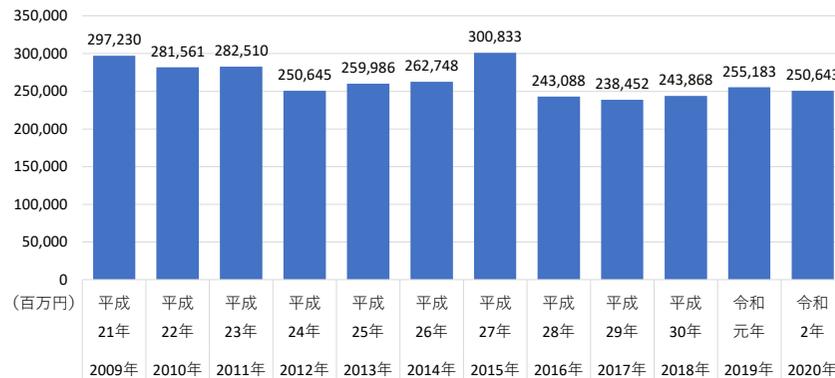
- 本市の製造業の**事業所数**は、平成21年以降**減少傾向**が続いており、令和3年の事業所数は576所である。**従業者数**も平成28年から令和3年にかけて僅かに増加に転じたが総じて**減少傾向**で推移しており、令和3年の従業者数は11,282人となっている。
- 令和2年の**製造品出荷額等**は約2,506億4千3百万円で、平成28年以降は**横ばい**で推移している。
- 業種別事業所数**は、「**金属製品製造業**」が最も多く、次いで「**生産用機械器具製造業**」、「**食料品製造業**」と続く。
- 従業者数**は、多くの生産人員が必要な「**食料品製造業**」が最も多く、次いで「**金属製品製造業**」、「**電気機械器具製造業**」と続く。

図表 事業所数・従業者数の推移



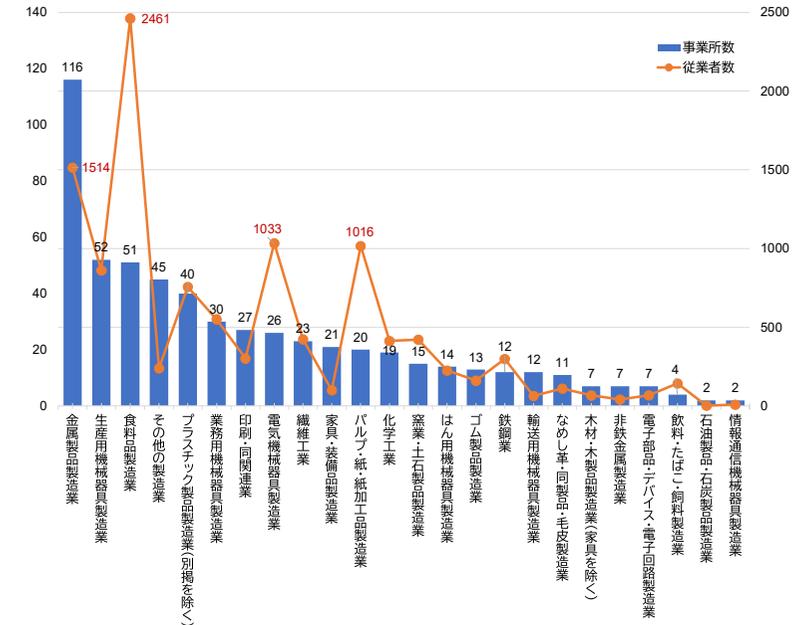
出典：総務省・経済産業省「平成21年・26年経済センサス-基礎調査」「平成24年・28年・令和3年経済センサス-活動調査」

図表 製造品出荷額等の推移



出典：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「平成24年・28年経済センサス-活動調査」(2011年・2015年)

図表 業種別事業所数・従業者数

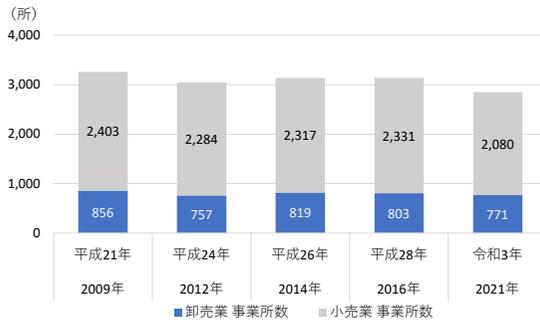


出典：総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」

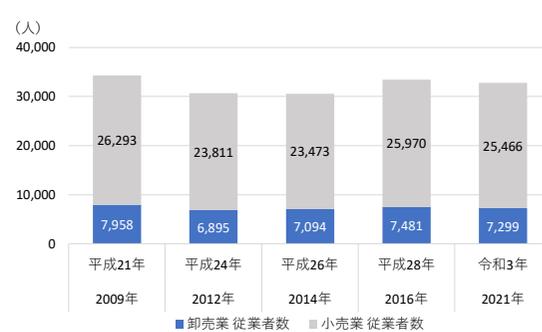
## 4. 業種別動向（商業）

- ・本市の「**小売業**」及び「**卸売業**」における**事業所数**は変動しながらも**やや減少**、**従業者数**は**横ばい**で推移している。
- ・**小売業の年間販売額**は、**平成24年**に一旦減少したが、**その後、増加**しており、令和3年は、約4,761億4千9百万円である。
- ・**卸売業の年間販売額**も、**平成24年**に一旦減少したが、**その後、増加**したものの令和3年に再び減少に転じ、約4,177億2千9百万円となっている。
- ・**小売業の売場面積**の推移は、変動しながらも増加傾向で推移してきたが、平成28年から令和3年にかけて減少に転じ、488,309㎡となっている。

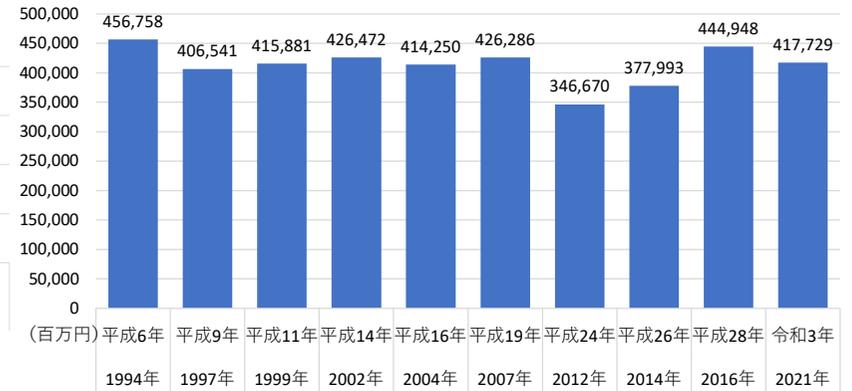
図表 事業所数の推移



図表 従業者数の推移

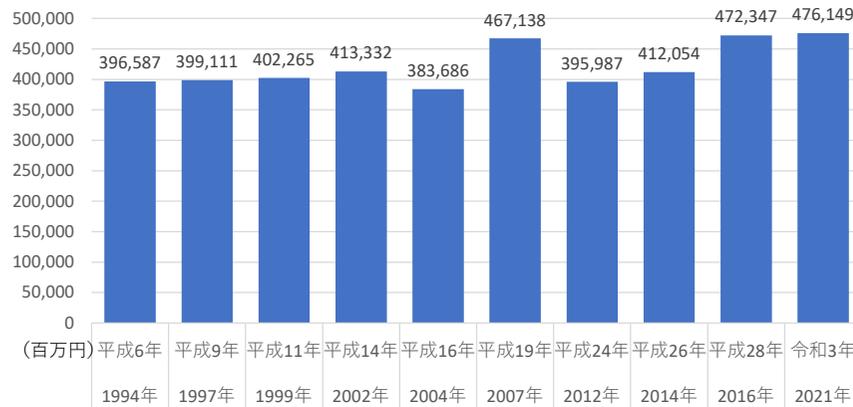


図表 卸売業の年間販売額の推移

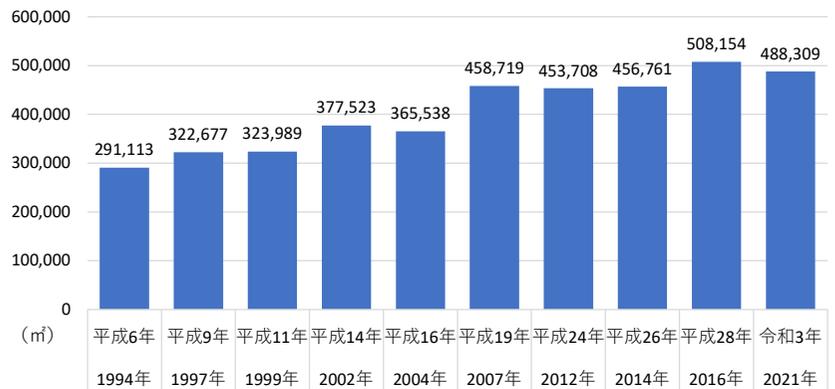


出典：総務省・経済産業省「平成21年・26年経済センサス-基礎調査」「平成24年・28年経済センサス-活動調査」 出典：経済産業省「商業統計」、総務省・経済産業省「平成24年・28年・令和3年経済センサス-活動調査」

図表 小売業の年間販売額の推移



図表 小売業売場面積の推移

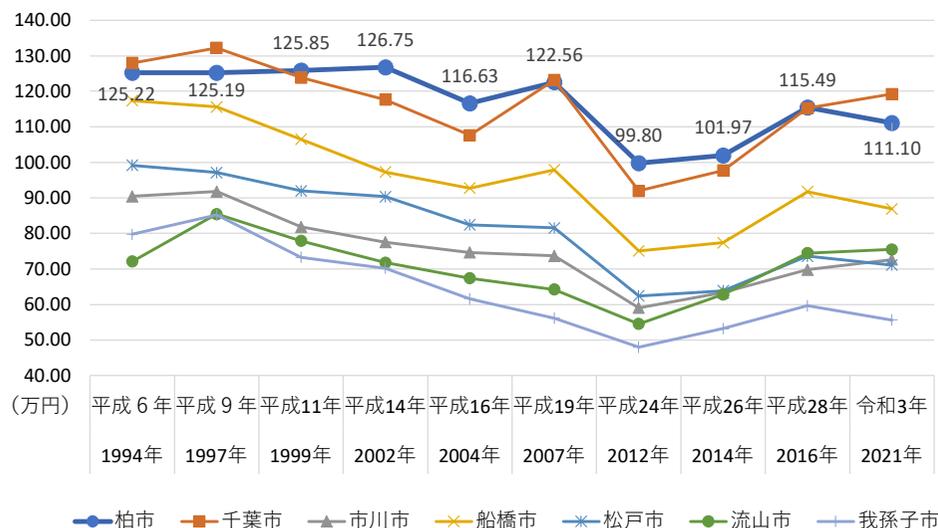


出典：経済産業省「商業統計」、総務省・経済産業省「平成24年・28年・令和3年経済センサス-活動調査」

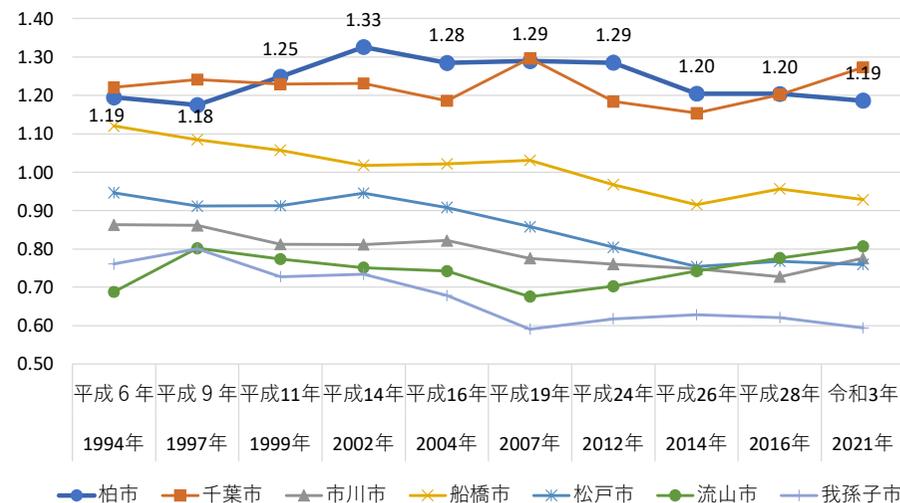
出典：経済産業省「商業統計」、総務省・経済産業省「平成24年・28年・令和3年経済センサス-活動調査」

- ・令和3年の市民一人当たりの年間小売販売額(万円)は、**111万1千円**。推移をみると、平成24年に減少後、増加に転じたが平成19年以前の金額には達していない。近隣自治体等と比較すると、千葉市とともに高い金額で推移している。
- ・令和3年の小売吸引力指数は、**1.19**。平成6年以降の推移をみると、継続して1.0を上回っている。近隣自治体等と比較すると、千葉市とともに高い指数を維持している。

図表 市民一人当たりの年間小売販売額(万円)(近隣自治体等比較)



図表 小売吸引力指数(近隣自治体等比較)



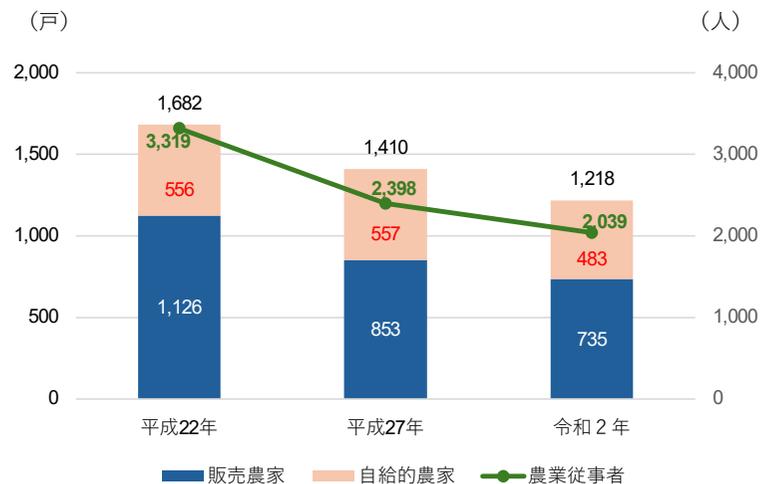
※小売吸引力指数とは、千葉県の一人当たりの年間小売販売額に対する市域の一人当たり年間小売販売額の比率で、市域の商業の誘客力を示す。1.0 以上の場合、買い物客を外部から呼び寄せている。

出典:年間商品販売額は経済産業省「商業統計」、総務省・経済産業省「平成24年・28年・令和3年経済センサス-活動調査」  
人口は、「千葉県毎月常住人口調査」(平成6年)、「住民基本台帳」(平成9年以降)

## 4. 業種別動向（農業）

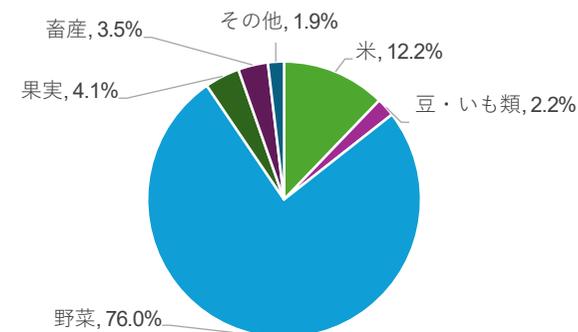
- 本市の総農家数は継続して減少傾向にあり、令和2年は1,218戸となっている。
- 販売農家、自給的農家、農業従事者ともに減少傾向にある。
- 令和4年市町村別農業産出額（推計）によると、柏市の農業産出額（推計）は63億円で、その品目別内訳は「野菜」が76.0%を占め、かぶ・ねぎ・ほうれん草の生産が盛んとなっている。  
次いで「米」が12.2%と続いている。

図表 総農家数の推移



出典：令和5年柏市統計書（柏市）

図表 農業産出額（推計）の品目別内訳

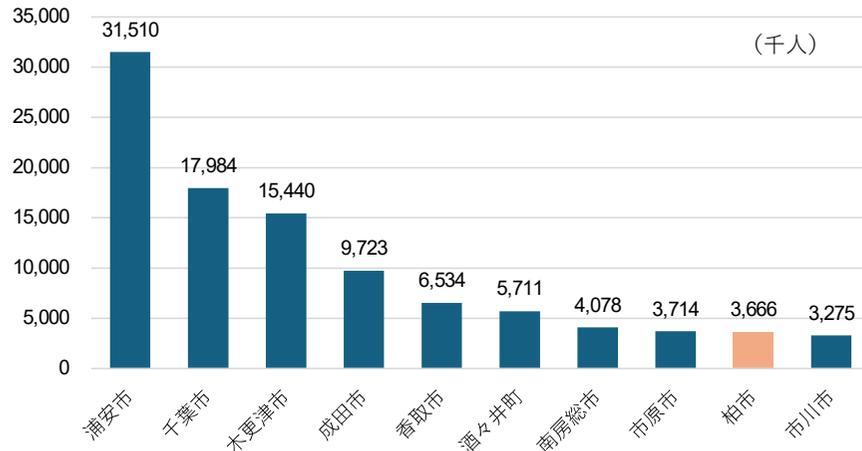


出典：農林水産省「2020年農林業センサス」

## 4. 業種別動向（観光）

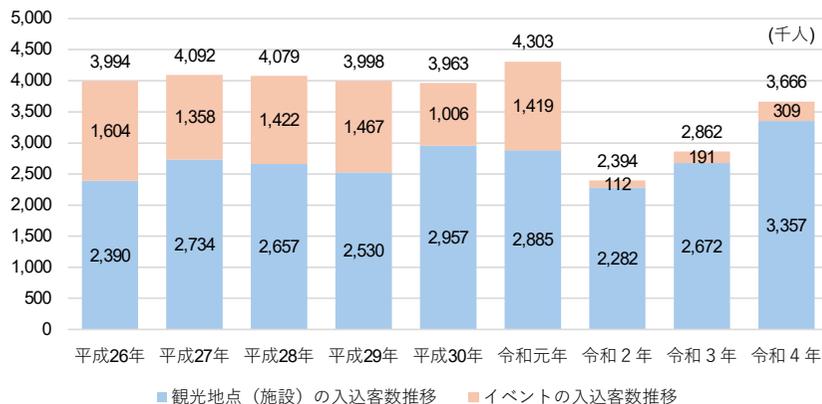
- ・千葉県内の令和4年における観光地点等入込客数をみると、本市は約366万人で9位となっている。
- ・本市の観光地点等入込客数の推移は、令和元年までは400万人前後で推移してきたが、コロナ禍の影響があった令和2年に前年比56%に減少した。その後、回復基調に転じ、令和4年に観光地点（施設）の入込客数は約335万人と令和元年を超えたが、行催事・イベントは約30万人と低位となっている。
- ・本市の令和4年における観光地点等への入込客数（上位5地点）は「道の駅しょうなん」が最も多く138万人で、「県立柏の葉公園」「あけぼの山農業公園」「三協フロンテア柏スタジアム」「柏の葉競技場」と続いている。
- ・柏市観光基本計画から、柏市中心市街地の観光についてみると、昼間だけでなく夜間の活気も評価されながらも「まちの安全に向けた対策が必要」とされている。

図表 観光地点等入込客数（近隣自治体比較）



出典：令和4年千葉県観光入込調査報告書（千葉県）

図表 本市における観光地点等入込客数の推移



出典：令和4年千葉県観光入込調査報告書（千葉県）

図表 本市の主な観光地点等への入込客数上位5地点（延べ人数）

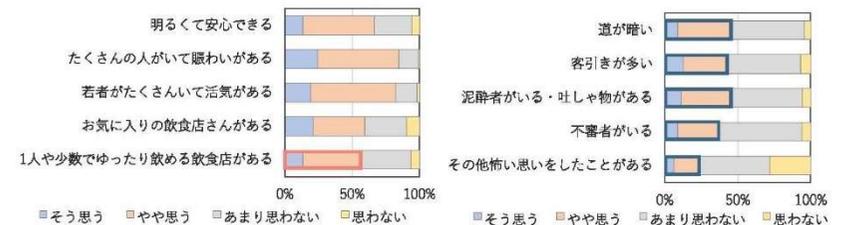
（単位：万人）

| 観光地点、行催事・イベント名 | 中分類           | 小分類           | 令和4年 (A) | 令和3年 (B) | 増減 (A-B) |
|----------------|---------------|---------------|----------|----------|----------|
| 道の駅しょうなん       | その他           | 道の駅、パーキングエリア等 | 138      | 86       | 52       |
| 県立柏の葉公園        | スポーツ・レクリエーション | 公園            | 130      | 128      | 2        |
| あけぼの山農業公園      | スポーツ・レクリエーション | 公園            | 63       | 48       | 15       |
| 三協フロンテア柏スタジアム  | 行催事・イベント      | スポーツ観戦        | 17       | 10       | 7        |
| 柏の葉競技場         | 行催事・イベント      | スポーツ観戦        | 10       | 9        | 1        |

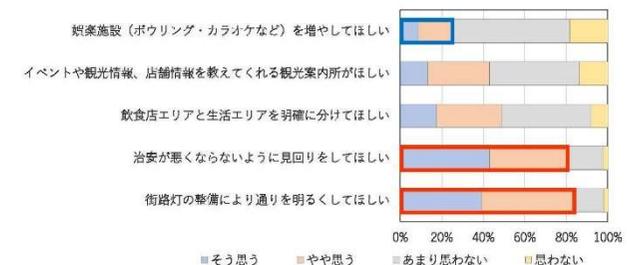
出典：令和4年千葉県観光入込調査報告書（千葉県）

図表 柏市中心市街地の観光課題

夜間の柏市中心市街地の評価とイメージ



夜間の柏市中心市街地への要望



出典：柏市観光基本計画（柏市）

## 5. 立地環境

### ●住宅都市としての土地利用構成。

### ●JR 柏駅・東武アーバンパークラインの柏駅は、1日の乗降客数が10万超。

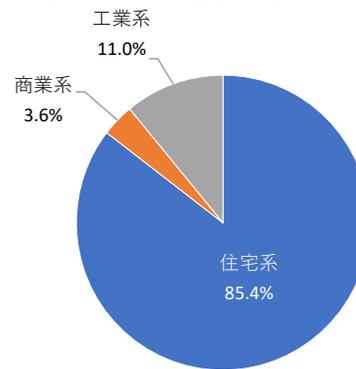
- 本市の市街化区域面積は5,484haである。用途地域の指定は、住居系 85.4%、商業系 3.6%、工業系 11.0%で、**住宅都市としての土地利用構成**となっている。
- 市内に乗り入れている JR、つくばエクスプレス、東武鉄道の各駅における**乗降人員数**は、いずれの駅も**令和3年から令和5年にかけて増加**している。
- 特に、つくばエクスプレスの柏の葉キャンパス駅は、令和2年から5年にかけて3年間で、約1.4倍に増加。

- JR と東武アーバンパークラインが乗り入れている柏駅は、どちらの鉄道も乗降客数が10万人を超える。

### ●44の商店会がコミュニティの核となり地域の賑わいに貢献

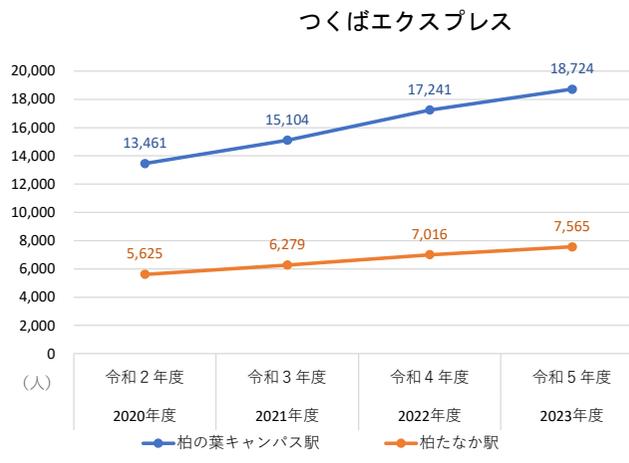
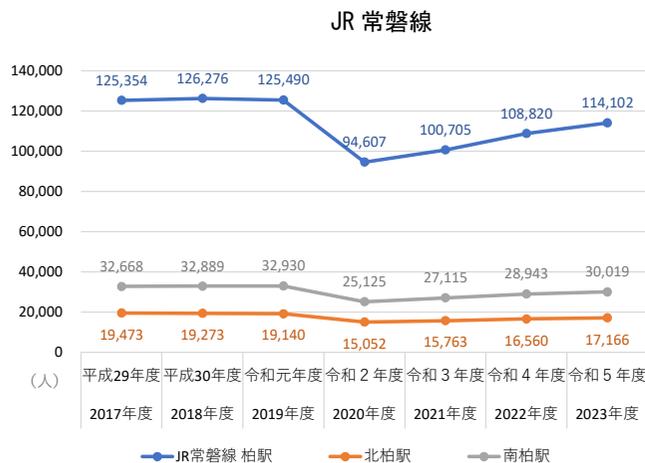
- 市内には**44の商店会**（2024年4月1日現在）があり、身近な買い物スポットとしてだけでなく、『地域のにぎわいの場・コミュニティの核』としての役割を持ち、市や他団体と連携した安心・安全なまちづくりのための活動も実施している。

図表 本市の用途地域別面積比率

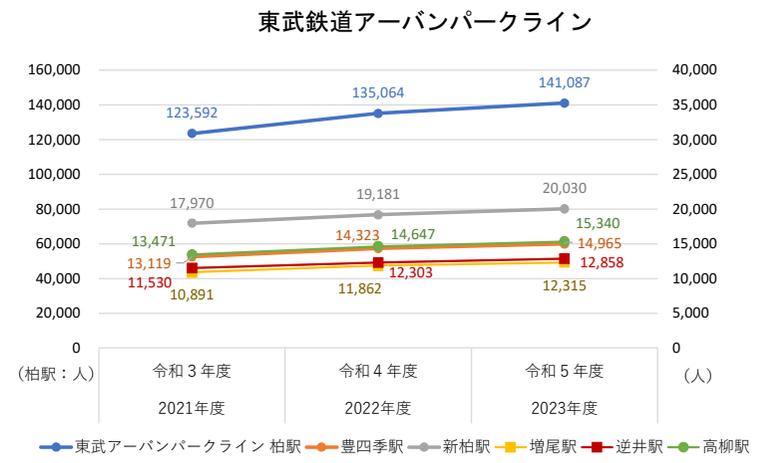


出典：令和6年柏市統計書（資料 都市計画課）

図表 駅別乗降人員（一日平均）の推移



※2020・2021年度（令和2・3年度）は1日平均乗車人員（速報値）より算出



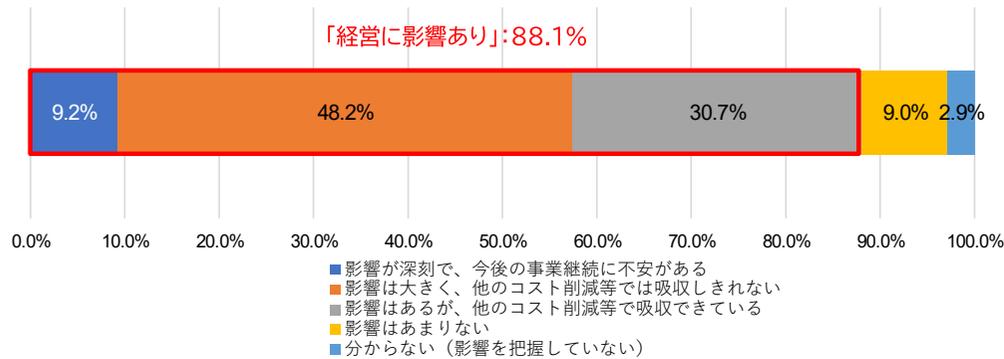
出典：東日本旅客鉄道株式会社 HP「各駅の乗車人員」、東武鉄道 HP「駅情報（乗降人員）」、つくばエクスプレス HP「乗車人員」

## 6. 省エネ・脱炭素への取組み

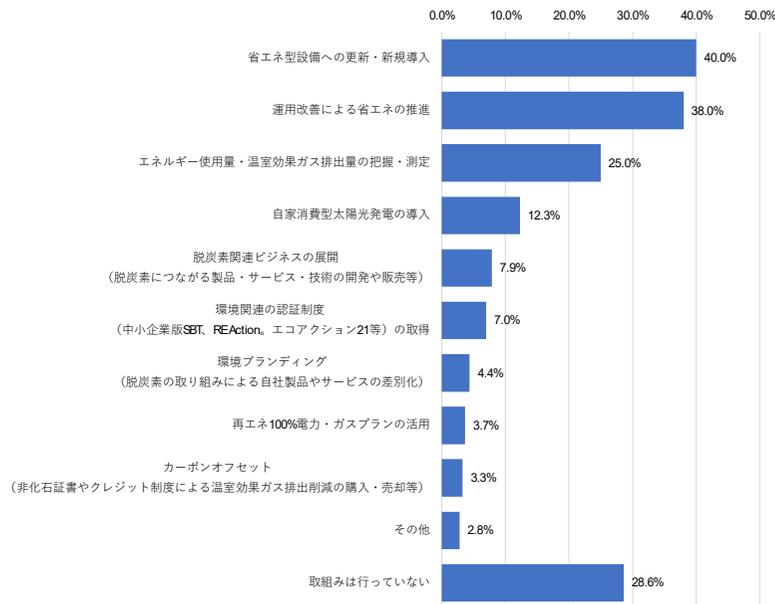
- 全国調査によると、約9割の中小企業がエネルギー価格の上昇の影響を受けている。脱炭素に対する取組みは約7割が実施。
- ・エネルギー価格の上昇により、約9割の中小企業が経営に影響を受けている。
- ・脱炭素に対する取組みは、「行っていない」中小企業が約3割。約7割の中小企業が脱炭素に関する何らかの取組みを実施。

- 政府・自治体には資金支援、商工会議所へは情報提供支援に対するニーズが高い。
- ・政府・自治体に求める支援策としては、「省エネ設備、再エネ導入等に対する資金面での支援」が71.3%と最も多く、資金面でのサポートニーズが高い。
- ・商工会議所に求める支援策としては、セミナー実施や、国・自治体支援の情報提供等、「知る」ことに関するニーズが高い。

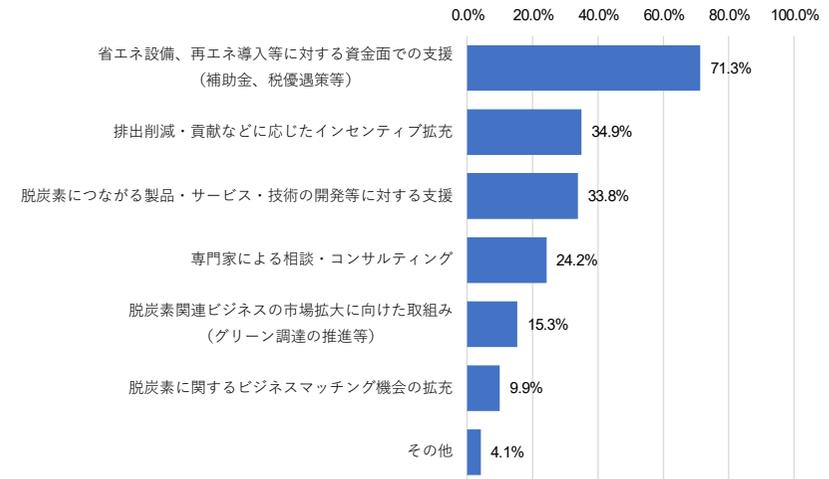
図表 エネルギー価格上昇の影響



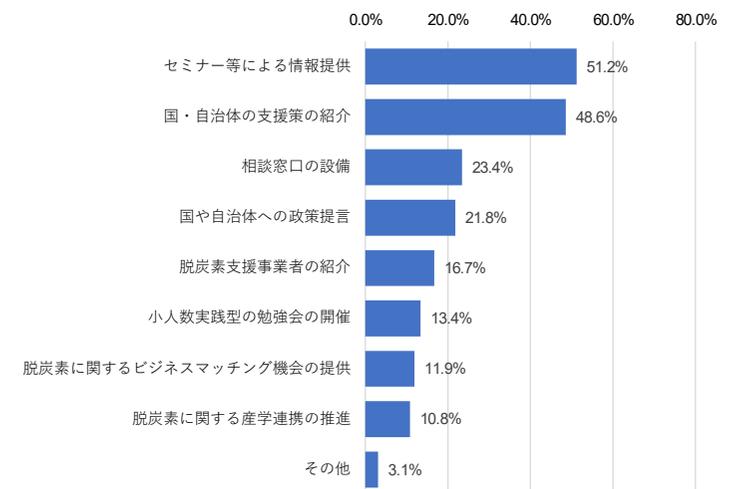
図表 実施している脱炭素に関する取組み



図表 政府や自治体に期待する支援策



図表 商工会議所に期待する支援策



出典：中小企業の省エネ・脱炭素に関する実態調査(令和6年3～4月)日本商工会議所・東京商工会議所